

学園研Cによる研究成果

「海外留学事前事後指導の基礎研究」成果報告（共同研究）

深谷輝彦（代表）、笠原正秀

本学部の英語留学プログラムには、中期留学・中期留学ブリッジプログラムという二種類があり、毎年70名前後の学生が海外の提携大学にある language center へ留学している。そのプログラムの事前事後指導は、これまで試行錯誤的に行われてきている。そこで、留学プログラム設立10年目を迎える時期に、改めてどのような事前事後指導が望ましいのか、組織だった調査研究を実施した。具体的には次の二つの調査研究を行った。

1. 留学関係文献調査（深谷担当）
2. 留学体験者・本学留学担当教員・提携大学留学担当者へのアンケート（笠原担当）

1. では、2003年から2010年という最近の留学に関する著作17冊を基に、留学の事前事後指導に役立ちそうなアイデアを収集するという調査活動を行った。その17冊の中身は多様で、留学のノウハウ、英語学習法、留学生への助言、留学生の心理研究と幅広い。また書き方も文字中心のものから、イラスト、写真、表を駆使したものまである。著者も、留学カウンセラー、留学支援団体、言語習得研究者、英語センターの教員と多種多様である。しかし、本調査の目的は、事前事後指導のヒントを探すという一点につきる。その結果、26のアイデアを収集することができた。その例を挙げておく。

- ・〈日本文化〉留学プログラム参加者同士で、日本的なもの（例、剣玉）を英語で説明しあう。
- ・留学前に、どのような英語能力を伸ばしたいか、考える場を設ける。留学目的一覧を参考に渡す。
- ・留学先の国、地域、大学について、留学支援公共機関も含めて調査報告書を作成する。
- ・留学前の英語力アップ・プログラムを作成する。
- ・留学生として求められる勉強対策を練習する（例、リーディング「要所をつかんで読む」）。

2. では、中期留学および中期ブリッジの現状の把握と検証、そして今後の発展に向けての検討を目的としたアンケート調査を実施した。本アンケートを通じて、プログラムそのもの、あるいは留学先での満足度や到達感、場合によっては変更の必要性などを知ることが主な目的である。また、留学前に受けた事前指導（留学先別勉強会・講演会・危機管理に関するセミナーなど）や帰国後の事後の指導（単位認定のための面接、パネルづくり、勉強会を通じて次に出発する学生へのアドバイスなど）の効果やそのあり方、留学期間中、学生が現地地で経験したこと、あるいは日本にいる窓口教員とのやりとりなど、思うこと・思ったことをありのままにフィードバックしてもらうことで、よりはっきりとプログラムの現実の姿を浮き彫りにすることができ、良い点、そして検討の必要のある点を明らかにすることができた。

最後に、本研究の詳細は平成23年3月に発行される研究成果報告書を参照されたい。